

## 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2472400262
法人名	医療法人 緑の風
事業所名	グループホーム くつろぎの家
所在地 (電話番号)	津市河芸町東千里13-2 (電話) 059-245-6065
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 7 月 24 日(火)

## 【情報提供票より】(19年7月9日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 5 月 23 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算 5.8人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

## (4) 利用者の概要(7月9日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1		名	要介護2 3 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 87.2 歳	最低 81 歳	最高 91 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	有床診療所千里クリニック・大杉歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人として、同敷地内に老人保健施設、クリニック、訪問看護ステーション等がある。利用者の状態の変化にもすぐに対応できるように連携がとれている。管理者は開所当初からホームに勤務し、認知症介護に関わってきている。地域密着型として今後更に、地域とどう関わっていけばいいのかを日々模索しながら全職員と一緒に取り組んでいる。管理者の愛犬も一緒に通勤し、終日ホームで過ごし利用者の癒しとなっている。
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の中で、共用部分の整理整頓、洗剤・包丁の保管場所の見直しについて指摘されたが、再度職員で話し合い現在では改善している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	職員全員で自己評価に取り組み、話し合ったものを管理者に提出している。新たな気づきや課題を検討し合い、利用者の視点にたった取り組みをしている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 管理者は、各方面(構成員)に働きかけをしているが、開催日、曜日、時間、組織上の未解決課題が多く実施までに至っていない。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの意見や苦情は上がっていない。ホーム側には苦情相談窓口を設置している。また、外部の相談窓口の提示もある。 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 母体の医療法人が自治会に入っているが、ホーム独自に自治会へ参加することはしていない。もっと前向きに関わらねばとの姿勢はある。法人で実施する納涼祭があり地域の人達の参加がある。また、市民センターのイベントには見学に行き、地域の方々が出展された作品を見学に行ったりして交流をしている。

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念に「一人ひとりを大切に家庭的で楽しく生活する」があるが、その主テーマとして「どのように地域と関われるか」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム独自の理念について、管理者は毎日の申し送り時や毎月のミーティングで話しあい全職員に理念の意義を浸透させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	経営主体は医療法人であり、自治会に入っている。市民センターのイベントがあり、地域の人達の展示作品を見学したり、近くの産地直売所で買い物をしたりして交流を図っている。	○	自治会の入会はあっても、参加をしていない。折角の機会でもあり、ホームから積極的に出かけて更なる地域の人達との交流を深めてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点について、職員と一緒に話し合い検討した案を管理者に提出して管理者がまとめている。自己評価についても、一人ひとりの職員が考えたものを管理者に提出しており、ホーム全体で質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者は構成委員メンバーを決めて各方面に参加のお願いをしているが、開催日、曜日、時間、組織上等の課題が多く実施に至っていない。	○	主催側としては色々と解決すべき課題が山積しているが、今後も継続して各方面に働きかけて運営推進会議開催の実現に取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	人権擁護委員、民生委員の見学があったり、認定更新時には利用者の調査に立ち会う等、市社協事業との交流もしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回のホーム便り「のんびりと」を発行しており、家族等の面会時に渡している。また、健康上気になることがあれば、随時電話等で家族と連絡を取り合っている。金銭の預かりもあり、小遣いの出入りが分かるようにしている。面会時にレシートの返却と小遣帳の内容の確認もしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情については今まで上がっていない。家族等との信頼関係の重要性を認識し、何についても話しやすい様にコミュニケーションの強化を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職や異動で入れ替わりがある時は利用者にも話している。また、新しい職員は紹介したりしている。それにより利用者が不穏になることはない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会の研修に職員は交代で参加しレポートを出している。また他の職員にも情報の伝達をして共有している。法人内での勉強会も3ヶ月毎にあり、職員はできるだけ参加するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が個人的な友人等との交流の中で、他のホームに見学に行ったりしている。また、訪問もある。互いに情報交換をしてホームの質の向上を図ろうと努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の情報収集だけでなく、管理者が自宅を訪問し顔馴染みの関係づくりをしている。困難者には何度も自宅を訪問したりすることもある。家族等の見学もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活のリズムを把握し、例えば、一緒にゴミ出しをしたり、洗濯物たたみ、野菜作りの基本を教わったりして一緒に生活している関係を構築している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や入居後に知り得た情報から、その人の思いを尊重し、少しでも意向を汲み取ろうと努力している。例えば、自宅に置いてきたペットの処遇について各方面と連絡を取り合い、本人が安心して入居を継続できるように取り組み中である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回のプラン会議があり、その中で家族等からの要望があった時や、日頃からの気づき等を出し合った上で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1回介護計画の見直しをしている。計画書の書き換えはしていないが、ミーティングで話し合い、内容を業務日誌、カルテに記載している。家族等には、経過を連絡している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物、散歩、馴染みの理容店でのカット、結婚式参加、受診等への支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今はかかりつけ医での受診を希望される方はいない。週1回の往診が同法人内のクリニックからある。歯については協力歯科の訪問がある。継続して歯科治療が必要な時には、家族の都合がつかない場合、一緒に受診に付いていたりしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員はターミナルについて勉強をしている。しかし、不安もある為、医師、看護師から講義をうけたりして終末期に向けた研修もしている。以前には終末期を迎えた方の対応も体験している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「その人の立場にたって」を念頭におきつつ日頃から利用者に接している。話しかけは改まった敬語ではなくごく自然体で話している。トイレへの声かけも「ちょっと向こうにいきましょうか」という形で周囲に配慮して誘導している。家族の面会簿も他者の目に触れないように、業務日誌に訪問のあった家族名を記すように変更している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、外出等の希望があれば出かけたり、お花を活ける方や、詩吟を披露される方等、本人の意思に添った支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に同じ食事をとっている。嚥下困難な方にはソフト食で対応している。和やかな会話の中で楽しみながらの情景がそこにはある。片付け等できる方にはできる事をしていただいている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後2時半から入浴できるようになっている。毎日や2日毎、清拭の方とそれぞれ思い思いの日に入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブに出かけたり、野菜の種まき、水遣り、草取り、洗濯物たたみ、詩吟等、その方が楽しんでいただくようにサポートしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ外にでる機会をつくろうと少なくとも火木土曜日が散歩日となっていて、公園やホーム周辺の田んぼを散歩している。近くのスーパーに買い物に出かけたりもしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に玄関の施錠はしていない。玄関を出ようとする中扉の鈴が鳴り気づくようになっている。今のところ出て行かれる方は見えない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体の法人での避難訓練はしているがホーム独自ではしていない。マニュアルの作成はあるが、頭でイメージした話し合いをしているだけで実際の訓練はしていない。	○	地震、火事等の災害時に応急できるように、例えば、消防署等の指導を時には受けていただき災害時に備えてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の管理栄養士がおおよその把握をしている。水分摂取については、要所要所でお茶、コーヒー、健康飲料水等の用意をして水分の摂取不足が起きないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓が大きく明るい。季節の花が活けてあったり、寛げるソファが置いてある。居室前には団欒できるような木製のテーブルと長いすがあり馴染んでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	リクライニング椅子、写真、テーブル、テレビ、時計等その方の慣れ親しんだ品の持ち込みがあり穏やかに過ごされている。		